

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	新潟盲学校・新潟聾学校統合校	
建設地	新潟県新潟市東区竹尾2丁目2番1号	
用途地域	商業地域、防火地域	
建物用途	学校、集会所、集合住宅	
竣工年	2021年4月 竣工	
敷地面積	36,895.00 m ²	
建築面積	7,057.26 m ²	
延床面積	10,818.98 m ²	
階数	地上2F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2019年9月4日	

2. CASBEE新潟の評価結果

<p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{62.6}{36.3} = 1.7$
---	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.5		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 4.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.3		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.1		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.1
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 4.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。
- 長寿命化の取組み: 維持管理のしやすさ、バリアフリーを計画しています。
 - 地震への取組み: 耐震性について、建築基準法の1ランク上の25%増を計画しています。
 - 大雨への取組み: 行政指導規模の雨水処理対策を実施しています。
 - 自然エネルギーの取組み: 複層ガラスを採用し、建物の熱負荷抑制を計画しています。
 - 資源循環の取組み: 解体時に躯体と仕上材の分別が可能で可能です。
 - 水と緑を活かす取組み: 現状の緑地部分を残し、生物環境の保全に配慮しています。
 - 新潟のまちなみへの取組み: 周辺の景観と調和した外観としています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟盲学校・新潟聾学校統合校	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市東区竹尾2丁目2番1号	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校,集会所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年4月 竣工	評価の実施日	2019年9月4日
敷地面積	36,895 m ²	作成者	〇〇〇
建築面積	7,057 m ²	確認日	2019年9月5日
延床面積	10,819 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.1
温熱環境	2.6
光・視環境	3.4
空気質環境	3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.3
耐用性	3.2
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

生物環境	4.0
まちなみ	5.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.1
設備システ	3.7
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	4.0
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.5
地域環境	3.1
周辺環境	2.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 「様々な交流を生み出す施設」「大人の目で見守れる施設」「居心地の良い施設」「安らぎを感じることができる学校」「心理的負担・プライバシーに配慮した施設」を基本方針とした計画としています。		
Q1 室内環境 冬場、夏場において快適な室温を可能とする為に空調設備を適切に設けています。また、適切な照明を配置し、作業効率の高い空間としています。	Q2 サービス性能 床に段差のないバリアフリーな施設計画とし、各室共々とりのある空間としています。また、防汚性の高い仕上の採用により維持管理や清掃のしやすい環境を整えます。	Q3 室外環境(敷地内) 建物を周辺の景観とバランスよく調和するデザインとしています。
LR1 エネルギー 高効率機器の採用等、省エネ化を図ります。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない建材を採用しています。	LR3 敷地外環境 駐車場及び敷地出入口を分散にて設け、周辺道路に渋滞や路上駐車が発生しにくい環境を整えています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される